

「やさしい日本語」に関する日本人の意識

島 弘子・八重澤美知子・桜田 千采・岡澤 孝雄
(松下)

はじめに

近年来日する外国人の増加に伴い、ごく簡単な内容の日本語しか解せない留学生も多くなってきている。大学で学ぶ留学生は、そのほとんどがレベルに応じた日本語クラスで語学の習得に努めているが、初級レベルの学習者の中には「教室で習った日本語を使って、外の日本人と話すとき、相手が何と言っているのかわからないときがある」と、悩む留学生がいる。

一方、受け入れ側の日本人は留学生とのコミュニケーションを少しでも円滑に進めるために、言語面や非言語面においてさまざまな方法を試みている。しかし、どの側面で、どの程度、どのような方法を用いてコミュニケーションを図っているのか、そして、それらが果たして有効に作用しているのかどうか、という問題もある。

そこで本稿では、留学生と日本人とのコミュニケーション上の困難さや支障がどのような点に起因しているのかを、受け入れ側の日本人事務職員と日本人学生の日本語意識から考えてみることにする。具体的には、日本語母語話者である学生や職員が、初級レベルの非母語話者である留学生に対し、どのように「やさしく、わかりやすい日本語」を話そうとしているのかを質問紙調査により、明らかにすることを目的とする。

I. 方法

1. 調査方法：質問紙による調査（資料1）
2. 対象者：国立大学で働く事務職員、国立大学学生、大学院生、女子短期大学学生、専門学校生の計193人（表1）
3. 実施時期：1996年9月～1996年12月
4. 質問紙の内容は、以下の4つの内容を含む。
 - 1) 個人的プロフィール（全員対象）
 - 2) 「やさしい日本語」に対する意識調査（学生のみ対象）
 - 3) 「やさしい日本語」に対する選択問題（全員対象）
 - 4) 設問に対する記述式回答（3問中、2問は学生のみ対象）

〈表1〉回答者の内訳

	男性	女性	未記入	合計
大学事務職員	20	14	1	35
大学のチューター・ボランティア学生	10	5	0	15
大学工学部学生（4年生）	19	0	0	19
大学院院生	27	2	0	29
専門学校学生	0	48	1	49
女子短期大学学生（2年生）	0	46	0	46
合計	76	115	2	193

なお、2) は、スクータリデス (1981), (1988) に準拠した「言語的」項目と「非言語的」項目^(註1)をあわせて18項目からなる。3) は、類似した内容を表す日本語の選択肢の中から、最もやさしいと判断する語句、表現、文の選択。

質問項目の選定に先立ち、了解を得た上で日常場面における留学生と日本人との会話^(註2)の録音を行い、そのテープから書き起こしたもの（資料2）を基に、コミュニケーション上で問題となる項目を取り上げた。さらに、これらの実際場面の会話から採用した項目のほかに、縮約形、擬音語・擬態語、文体、文の種類（単文・複文）、助詞の省略、複合助詞、意向形の使用など複数の日本語教師が、コミュニケーション上で障害になる可能性が高いと判断したものを選び、全部で25項目を選定した。

4) では、「駅までの道を説明する」（図1）、「郵便局の休日業務時間を答える」「名前や来日目的等をきく」の設問を用意した。「駅までの道の説明」の回答から、使用された言語や文法的特徴を所属や性別などの要素との関連からみる。また、「駅までの道の説明」「名前や来日目的の質問」の2つから、母語話者に対するときと、非母語話者に対するときの発話の比較を行い、「使用語彙」「発話文の数」、「敬語の使用」「二人称の使用」に関して分析を行う。

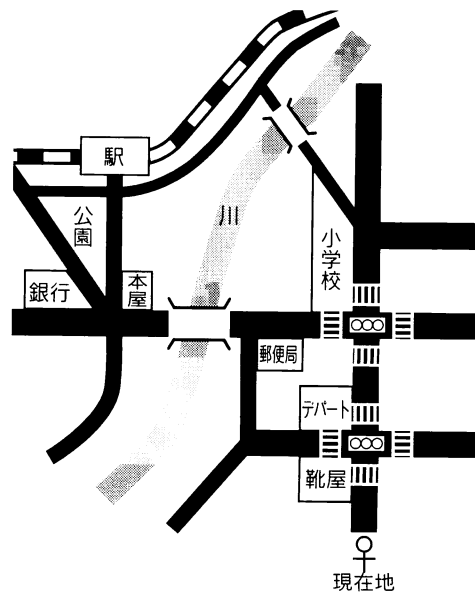


図1 駅へ案内するための地図

II. 結果と考察

アンケートから得られた結果は次の通りである。

1. 回答者のプロフィール

回答を得た事務職員の年代は、20歳代（7人）から50歳代（12人）に分かれている。ホストファミリー経験者は3人いるものの、海外勤務や留学経験はない。回答者の所属は、学生係（13人）、庶務係（5人）、留学生係（課）・厚生係・会計関係（各3人）、図書館（2人）、保健関係（1人）他にまたがっている。

一方、学生（158人）の外国人との接触経験は、平均して88.0%の学生に外国人と日本語で話した経験があるが、所属先や性別によって、その接触程度と時期に大きな幅がみられる。国立大学学生と大学院生のほとんどが、高い程度の恒常的接触（「研究室で」かつ「最近」の接触）である。短大、専門学校生は、接触時期が半年以前のもものが半数以上を占め、接触場面も「道で」「町で」といった軽度の接触が多く、その話題の大部分が「挨拶」や「ものの購入」「道をきかれた」といった内容をさす。

2. 外国人に対する「やさしい」日本語意識

2-1 類似度に関する意識

ここでいう「類似度」とは、「挨拶や簡単な買い物などのやさしい日本語だったら話せるが、込み入った内容になると理解できない外国人と日本語で話すときの日本語は、日本人と話すときの日本語と、どの程度似ているかという度合い」を指す。まったく同じ場合を100%として、5段階で評価してもらった結果は、事務職員と学生共に、50%の類似度に回答が集中した。

2-2 事務職員に見られる会話上の留意点

事務職員に、「留学生との会話で工夫したり気をつけている点」と「困難に感じた点」を自由記述であげてもらったところ、15人から次のような結果を得た。

工夫したり気をつけている点で最も多くの人が意識しているのは、「ゆっくり話す」（8人）で、2位以下を大きく引き離していた。次は「身ぶり・手ぶり（ジェスチャー）」の3人、「中国系の学生に対して筆談を利用（2人）」、「(やや) 大きい声で話す（2人）」、「相手の反応を見ながら話す、相手の目をみて話す（2人）」、「はっきり話す（2人）」、「図や地図、現物の利用（2人）」、「あまり省略した言葉は使わない（1人）」、「同じことを2、3度言って確認をとる（1人）」であった。

次に、会話に関して困難に感じた点として、相手の理解度や確認の大変さをあげる記

述が寄せられた。具体的には、「会話の確認をとっても本人には伝わらないことがある」「留学生の方は、理解できなくても『ハイハイ』と返事するので、理解できたと思ってしまっ、後で全然通じてなかったことがある」「こちらの言っていることを理解しているかどうかの判断ができなくて困ることが多い」といった回答であった。

その他には、「事務の用語（研究生・指導教官・申込書等）を説明するのが難しい」「単語がわかってももらえないと、何を話したらいいのかわからなくなる」「自分の英語力のなさ」「日本語がほとんど分からない人がいるのは困る」等、語彙の問題や双方の語学力不足がコミュニケーション上の支障となると感じていることがうかがえる。

2-3 学生による「やさしい日本語」に対する意識（選択方式）

学生158人の回答では、ほぼ全員の学生が「話す際の速さ」をゆっくりすることで一致していた。また、「ポーズ時間を長く、または、多くすること」も、ほとんどの学生が意識している。ほかに、「はっきり話す」「難しそうな語句、わかりにくい箇所を外国語に直して話す」「一文を短くする」「身ぶり手振りを多くする」「理解の確認を多くする」も8割以上の回答となっている。ほぼ2人に1人が意識している項目には、「相手の日本語が間違っている場合、訂正する」「相手の目を見て話す」「二人称の〈あなた〉を使用する」「声を大きくする」「キーワードを繰り返す」などがあつた。また、少数だが、「助詞を強調する」「相手との距離が近づく」「助詞を省略する」等^(注3)をあげている学生もいた(図2)。

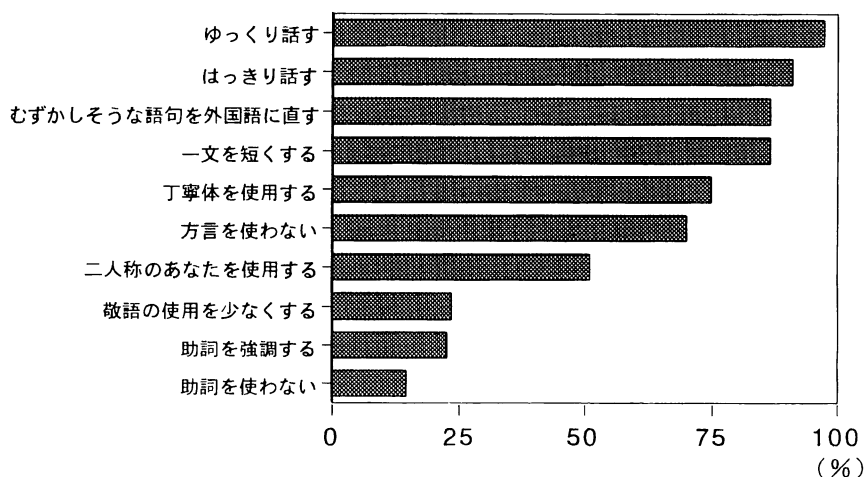


図2 日本語をやさしく話すために、意識していること

以上から、学生も、事務職員と同様に「やさしい日本語」のために「ゆっくり話す」ことを一番意識していることがわかる。ほかに、「はっきり」「一文を短く」「難しい箇所

を英語に直す」「身ぶり手ぶりを多くする」などが高い割合で選択されていた。助詞に関していえば、その使用意識が分かれており、過半数が「変わらない」と答えているものの、4人に1人は「助詞を強調する」、反対に14.4%が「助詞を省略する」と答えていた。助詞に関するこの結果は、外国人にとっての「やさしい」日本語を考える際に、学生が助詞の使用をどのように意識しているかの手がかりを示している^(註4)。

3 三択問題における難易度の認識について

三択問題に関して、本稿では代表的な日本語初級教科書8種^(註5)を選び、最も早く提示される語彙や表現を最もやさしいとする難易度基準^(註6)を設け、回答に判定を加えた。その結果、認識率(教科書の難易度順に沿った「やさしい」語彙や表現を選んだ率)は回答者全員で平均68.0%となった。所属別の内訳では、短大学生(74.6%)、大学院生(72.8%)、学部学生(68.8%)、事務職員(64.3%)、チューター・ボランティア学生(62.0%)、専門学校生(61.7%)の順で、所属によって少し差がでている。短大生は、回答者の所属学科(英語科と教養科)の影響が考えられる。また、大学院生に関していえば、研究室で日常的に留学生と接している率が極めて高いことから、「やさしい」日本語が具体的に把握しやすかったのではないかと推察できる。

次に、日本語範疇別にみると、縮約形を中心とした文法(48.8%)において全体に最も難易度の認識率が低く、次いで文体の選択問題(59.3%)、以下疑問詞(70.4%)・文法(72.6%)・語彙(72.9%)の順だった。

個々の設問別認識では、表2に示されるように、最も認識率の低いアンケート設問19(縮約形)の27.6%から、最も認識率の高い設問25の94.8%まで大きな幅があった。語彙の認識では、設問による差が見られた。例えば、設問2の認識率が平均で91.1%と高く、かつ所属グループ間の認識率の差異はほとんど見られなかったが、設問1では、平均で62.0%と低く、特に事務職員では半数以下(48.6%)しかいなかった(表3)。

また、資料2では「日付」という語彙の使用が事務職員と留学生とのコミュニケーション上の障害となっていたが、この認識の難しさは事務職員・学生に共通した使用傾向であることがわかった。設問21で「何月何日」を、「日付」や「今日の日」よりやさしい表現であると選んだ人の割合(61.5%)は、全設問平均より低かった。

同様な結果は、疑問詞に関してもいえる。「どういう」「何語」といった日本人ボランティア学生が無意識的に使用した疑問詞に関して、アンケートでも認識率は低く、設問3で59.7%しかなく、それを裏づけた形となっている。

表2 設問別認識度

設問番号	回答者数	認識者数	%
1	192	119	61.98
2	192	175	91.14
3	191	114	59.69
4	191	139	72.77
5	192	100	52.08
6	192	125	65.10
7	191	103	53.93
8	192	128	66.67
9	191	166	86.91
10	192	178	92.71
11	192	169	88.02
12	192	145	75.52
13	192	144	75.0
14	192	107	55.73
15	192	159	82.81
16	191	89	46.60
17	192	129	67.19
18	192	148	77.08
19	192	53	27.60
20	191	148	77.49
21	192	118	61.46
22	192	146	76.04
23	192	133	69.27
24	192	102	53.13
25	192	182	94.79

表3 「食べます」の認識率

	学生 (157人)	事務職員 (35人)
ご飯を食べます	102人 (64.96%)	17人 (48.57%)
食事をします	43人 (27.39%)	15人 (42.85%)
食事をとります	12人 (7.64%)	3人 (8.57%)

4 記述式にみる「やさしい日本語」意識の表れ

次に、非母語話者である外国人に対する「やさしい」日本語意識の表れを、記述式回答から検討する。使用言語と文体、複文と連用形接続、アスペクト、命令形の使用、助詞の省略、英語の語彙使用に関する分析結果は以下のようになった。

4-1 使用言語について

「駅までの道案内」場面で使用された言語には、日本語のみ、英語のみ、日英語併用の3通りがあるが、そのうち記入者全体の17.6%が、英語を一部分あるいは全体に使用している。英語の使用、あるいは日本語の使用という選択に及ぼす要因については、数量化理論Ⅱ類による分析を行った。説明変数として接触経験、性別、年代、所属を使った。

その結果、非母語話者である外国人に対して英語を使うか、日本語を使うかの要因としては、所属グループの影響が一番大きく、以下接触経験、年代、性別が続いた(図3)。英語使用のグループ、英語不使用のグループの重心はそれぞれ-0.8195、0.583であった。正準相関係数は0.361、正診率は69.36%である。所属グループで、大学生と大学院生・事務職員であるという属性が日本語使用に大きく影響を与え、反対に専門学校生や短大生では英語を使用する方向に作用している。専門学校・短大の学生が英語を話す割合は、大学・事務職員間に比べ、有意に高かった。(χ²検定、p<0.01)

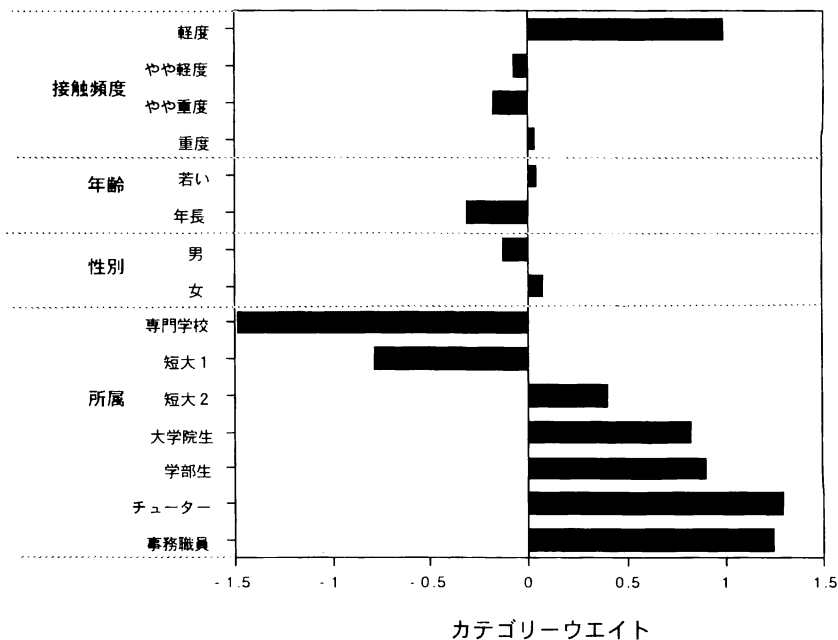


図3 英語使用者に関するカテゴリウエイト

4-2 名詞節、普通体ならびに連用接続の使用傾向について

複文では、副詞節の使用率は各グループ間で差異があまりないが、名詞節の使用は、事務職員が1人(4.2%)と非常に低く、以下チューター、大学院生、短大生、専門学校生と続き、学部ではほぼ半数近くの学生9人(47.4%)が使用していた。普通体の使用率も、事務職員において最も低く2人で、反対に学部学生が19人中6人と多かった。また、名詞節使用に所属グループ、名詞節に英語使用の影響は、見られなかった。

事務職員に多くみられた連用接続(「右に曲がり……」「まっすぐ行き、……)の使用は、記述のあった学生154人中、28人(18.2%)と少なかった。

4-3 使用された英語語彙について

アンケート2)の意識調査では85.6%の学生が、「難しい語句・表現は外国語に直して話す」と回答しているが、記述された回答からみる限り、英語が使われていたのは、初級レベルの外国人にとって難しい語句や表現ではなく、むしろ教科書の難易度によるとやさしい類の語彙や表現、または日常生活で身近な語彙という傾向がうかがえる。

(例1) あの信号のもう一つあっちの信号を左に曲がって、ここまで言っていることわかりますか、そして橋を渡ると bookstore があるので右にまがります。そしてそのストリートをまっすぐ行くとステーションがあります。わかりますか? (短大生)

回答にあった英語の語彙には、他に以下のものがあつた。

レフト、ブリッジ、ターン、デパート、school, light, books 屋、ストレート、brige go、two ブロックレフト、セカンド交差点、クロスロード、This street まっすぐ行って(ジェスチャーつき)、shoestore、パーク、ポストオフィス、river (すべて原文のまま)。

4-4 助詞の省略について

意識面で「助詞を省略する」と回答した学生が14.4%いたが、記述式でも、(例2)のような助詞の省略があつた。しかし、省略されていない助詞には、日本語教科書において提出順序があと、つまりより難易度の高い場合がみられた。

(例2) まっすぐすすんで、2こ目の信号、左、橋渡って、本屋を右、その後まっすぐいくと駅。
(チューター・ボランティア学生)

4-5 その他の傾向について

「駅が見えてきます」のように抽象的・時間的経緯の変化を示すアスペクトの使用は、

学生15人、事務職員6人にみられた。具体的な移動を示す「橋を渡って行くと……」の用例は、16人が使用し、中でも専門学校学生による使用（「～ていく」5人：用例数9、「～てくる」7人：用例数9）が目立った。

(例3) 真っ直ぐにあるいて3つ目の信号を左に曲がり、歩いていくと橋がみえてきます。

(専門学校生)

丁寧な命令形「～なさい」の用法も3例あったが、すべて事務職員による使用であった(40代女性、50代男性各1名)。

(例4) まっすぐ行って、信号を左に曲がりなさい。(事務職員)

5 非母語話者である外国人と母語話者である日本人に対する発話の比較

5-1 平均発話文数の比較

非母語話者である外国人への道案内に要した発話は、事務職員を含めた全体で平均2.59文、学生のみでは、2.52文であった。事務職員は、単文を重ねる傾向があり、回答を寄せた23人中14人が3文以上を使用していた。一方、専門学校学生は、46人中21人(45.7%)が1文のみで表していた。

非母語話者である外国人への発話数は、同じ内容を母語話者である日本人と比べる場合の約1.5倍である。表4からわかるように、非母語話者である外国人に対する発話文と母語話者である日本人に対する発話文数は、専門学校生、大学院生および大学生においてt検定で $p < 0.05$ の有意差が、短大生と学生全体では各々 $p < 0.01$ の有意差が認められた。また、非母語話者に対する学生と事務職員間の有意差は、認められなかった。「1文を短くする」という意識の高さが、この記述回答においても裏づけられた。

表4 平均発話文数の比較

所属	対象	人数	文数の平均	標準偏差	t検定
専門学校	対外国人	46人	1.978	1.145	*
	対日本人	49	1.531	0.819	
短大	対外国人	43	3.093	2.828	**
	対日本人	46	1.913	0.707	
大学院	対外国人	29	2.655	1.344	*
	対日本人	29	1.828	1.136	

学部	対外国人	19	2.316	1.493	*
	対日本人	19	1.316	0.671	
チューター	対外国人	12	2.5	1.883	ns
	対日本人	13	1.846	0.987	
学生全体	対外国人	149	2.517	1.617	**
	対日本人	156	1.699	0.919	
事務職員	対外国人	23	3.0	1.719	
	対日本人	—	—	—	

* $p < 0.05$ ** $p < 0.01$ ns 有意差がない

5-2 延べ語彙数の比較

使用された語彙は、次の3つのグループに分けられた。

① 母語話者・非母語話者にほぼ同程度使用された語彙

例：「曲がる」（非母語話者に対する述べ語数……以後、非母語と略す）254：（母語話者に対する述べ語数……以後、母語と略す）261

「まっすぐ」（非母語 240：母語 235）、「ある」（非母語146：母語142）

「渡る」（非母語100：母語119）、「着く」（非母語34：母語34）等多数。

② 母語話者に対して、より多い使用の語彙

例：「つきあたる」（非母語 9：母語26）、「手前」（非母語 3：母語10）

「～ながら（例；公園を右に見ながら）」（非母語 1：母語 7）

③ 非母語話者に対して、より多い使用の語彙

例：「歩く」（非母語60：母語19）、「進む」（非母語44：母語25）

このうち、①のように共通して使用された語彙は、道案内に欠かせない基本的な語彙といえる。反対に、②のように、できるだけ発話を避ける意識の働く語彙、ないしはほかの「やさしい」と判断する語彙に言いかえることのできる語彙は、受け入れ側の日本人が「より難しい」と判断した語彙といえる。しかし、③の「歩く」「進む」といった語彙が多く使用された理由についてははっきりしないが、それらが具体的な動作を示していてやさしく、わかりやすいと日本人が判断したからだろうと考えられる。

以上から、道案内の語彙を選択する場合において、基本的には非話者母語話者に対しても母語話者に対する時とほぼ同様な語彙の選択を行い、部分的に難解な語彙を避けるといった傾向がでた。

5-3 敬語使用と人称の使用について

「眼前の相手に、職業や来日目的・滞在期間を質問する」という会話を想定した回答から「敬語の使用」と「二人称〈あなた〉の使用」を取り上げて分析した結果は、次のようになった。

まず、敬語の使用面をみてみると、2)の意識調査では約4人に1人(23.4%)が「敬語を減らす」と回答していたが、その割合以上に敬語の使用を避けようとする傾向が記述式回答からでている。日本人のみに対し敬語を使用するのは、外国人にも日本人にも使わないとする人と同数で、158人中63人(39.9%)であり、反対に非母話者である外国人に対してのみ敬語を使用する人は、9人(5.7%)と非常に低い。

次に、尊敬語・謙譲語と丁寧語という使用された敬語の種類によって、使用頻度に相違がみられた。母語話者に対する尊敬語・謙譲語の多用とは対照的に、外国人のみへの使用例すべてが、男女ともに「ご職業」「お国」等の丁寧語だけであった(表5)。

表5 敬語の使用の内訳 (人)

対象	敬語の種類	男性	女性	不明	合計
日本人・外国人共に使用	尊敬語	3	1	0	4
	丁寧語	0	0	0	0
	尊敬語・丁寧語	0	7	0	7
	計	3	8	0	11
外国人にのみ使用	尊敬語	0	0	0	0
	丁寧語	1	8	0	9
	尊敬語・丁寧語	0	0	0	0
	計	1	8	0	9
日本人のみに使用	尊敬語	16	16	1	33
	丁寧語	0	12	0	12
	尊敬語・丁寧語	5	13	0	18
	計	21	41	1	63
日本人・外国人共に不使用	計	28	35	0	63
未記入その他	計	3	9	0	12
合計		56	101	1	158

目の前の相手に二人称の〈あなた〉を使用して質問するかどうかについては、有意差があらわれた (χ^2 検定, $p < 0.01$)。女子学生 (101名) は、母語話者・非母語話者ともに不使用が過半数の51名 (50.5%) を占め、母語話者には使用せず非母語話者に使用していたのは20名 (19.8%) である。なお残りの約3割は、母語話者・非母語話者に共通して使用する16名 (15.8%) と母語話者に対して使用する8名 (7.9%)、未記入その他6名 (5.9%) となっている。一方、男子学生 (56名) で最も多かったのが、非母語話者に対してのみ使用する26名 (46.4%) である。母語話者に対して1名 (1.8%)、母語話者・非母語話者双方に対して使用5名 (8.9%)、双方に不使用21名 (37.5%)、未記入その他3名 (5.4%) の比率と比べても、この非母語話者に対する〈あなた〉の使用数値は、きわめて高い。このことから、男子学生は女子学生に比べ、非母語話者である外国人に対し、二人称の主語の使用により「やさしく」話そうとする傾向が強いといえる。

Ⅲ. まとめ

本調査は、実際の接触場面の分析ではなく、想定された接触場面における日本語使用の意識とその記述例を検討したものである。従って、現実場面のようにコミュニケーションを通じて非母語話者の日本語レベルを推察し、相手の理解力に応じてさまざまに対処する点が欠けているのは否めないが、外国人留学生の受け入れ側の日本人が、「やさしい日本語」についてどう意識しているのか、そしてどのようにやさしく話そうと試みたのかを使用言語や文法、語彙、敬語使用等さまざまな角度から分析した結果、次の3点が明らかになった。

- ① 初級レベルの非母語話者に対して、学生・事務職員のほとんどが「ゆっくり」話すことを一番強く意識していた。その他「ポーズを多めに」「はっきり」「方言を交えない」「ジェスチャーで」「確認を入れる」「必要に応じてキーワードを英語などに置き換える」学生も多く、事務職員も同様に、ジェスチャー、筆談等を活用して、何度も確認を入れながら、確実に内容を伝えようという意識が強い。
- ② 「やさしい日本語」の三択問題の認識率は平均2/3であり、1/3の日本人がやさしいと思って使う日本語は、実際はやさしくはなっていない。また、所属グループによる差異、設問による差異がでた。設問の範疇別では、縮約形を中心とした文法や文体問題における認識率が低く、語彙は比較的高い。所属別では短大生・大学院生の認識率が高く、反対に専門学校生・チューター学生による認識率が低い。
- ③ 想定場面による会話の記述式回答からは、使用言語、平均発話数、文法、語彙、敬語の表れなどを順に取り上げ分析した。英語使用に関しては、性別や年代ではなく、

所属がその使用に及ぼす影響が高く、有意差のあることが判明した。専門学校・短大の所属は英語使用に作用し、大学生・事務職員という所属は、日本語使用に作用していた。また、平均発話数は、非母語話者に対するときと、母語話者に対するときとで有意差が認められた。英語の語彙使用では、「難しい語彙や表現を英語で」という意識とは裏腹に、やさしい英語の語彙、身近な英語の語彙が専ら使用されており、意識と現実の不一致があらわれていた。敬語や二人称の使用では、母語話者に対する場合と非母語話者に対する場合の差異や男女差が見られた。男子学生は、普段は使用しない二人称の〈あなた〉を、非母語話者に対して用いる人が半数近くもいること、尊敬語や謙譲語の使用は男女とも非母語話者に対して避ける意識が高く、もし使用するときは丁寧語が中心であるという傾向をみることができた。

以上、今回の調査では受け入れ側の日本人による「やさしい」日本語意識に焦点をあてて調査を行い上記の結果を得たが、日本語教科書の提出順序による難易度が、非母語話者である外国人にとって本当にやさしさの難易度に沿っているのか、という問題が残されている。そこで、ここで得られたことを基に「受け入れ側日本人が『やさしい』と意識する日本語が、初級レベルの非母語話者である外国人にとって実際に『やさしい』日本語ととらえられているのかどうか」に関してもさらに調査を行い、初級レベルの外国人と受け入れ側日本人との相互コミュニケーションがより円滑に進むように図っていききたい。

(付記1) 本論文の作成にあたり、工学部事務局、図書館工学部分室の方々の協力を得ました。また、本調査にご協力くださった学内関係者の方々にも深く感謝いたします。

(付記2) なお、この研究は平成7年度8年度文部省科学研究基盤研究(C)(研究代表者、八重澤美知子、課題番号 07610117)の研究費の一部を用いて行われました。

【参考文献】

- 志村 明彦 (1989) 「日本語の Foreigner Talk と日本語教育」『日本語教育』68号、pp. 204-215.
- スクータリデス・アリーナ (1981) 「日本語におけるフォーリナー・トーク」『日本語教育』45号、pp. 53-62.
- スクータリデス・アリーナ (1988) 「日本人が外国人と話す時」『国文学と鑑賞』一月号、pp. 118-125.
- ダニエル・ロング (1992) 「対外国人言語行動の実態」『日本語研究センター報告』1、大阪樟蔭女子大学日本語研究センター、pp. 57-69.
- 一三三 朋子 (1995) 「母国語話者と非母国語話者との会話における母国語話者の意識的配慮の検討」『教育心理学研究』第43巻第3号、pp. 277-286.
- 村上かおり (1996) 「日本語における母語話者と非母語話者とのインターアクションー非母語話者との接触経験が母語話者の「意味交渉」に与える影響ー」『日本語教育学会春季大会予稿集』、pp. 175-180.

- 注1) スクータリデス (1981) では、フォーリナー・トークの普遍的特徴として「長いポーズ」「助詞・助動詞の強調」「非常に短い文型」「キーワードの繰り返し」「相手の母語の使用」「簡単な語彙への訂正」、日本語独自の特徴として「重複の多さ」「丁寧すぎる表現」「一人称の多用」が、同 (1988) では、ディスコース上の特徴として、「確認をする」「まちがいの訂正をする」等があげられている。
- 注2) 1996年春から工学部でボランティア・グループが組織化され、異文化交流会が定期的 (週1~2回) に開催された。学生と留学生の会話は、この異文化交流会の場で録音されたものである。
- 注3) アンケートの回答には、ほかに「自分の言葉が方言かどうかわからない」という意見も9.1%あり方言の使用意識の地域性もでた。また、中には「研究室の留学生などと話すときは、あえて方言を多用する」(大学院生) といった意見もあった。
- 注4) 志村 (1989: p. 210) では、「FT (Foreigner Talk) の方が母語よりも助詞が多く使われ、省略されない」とある。
- 注5) ここでいう初級日本語教科書とは、『日本語の基礎 I, II』『文化初級 I, II』『Situational Functional Japanese』『Total Japanese』『初級日本語』『A Course in Modern Japanese』『An Introduction to Modern Japanese』『日本語初歩』の8種を指す。
- 注6) 例えば、「そこにおいておいてください」「そこにおいてください」「そこにおいたままにしてください」の中では、縮約の形ではない「ておく」を最もやさしいものと判断した。「~したまま」という表現は、上記の8種中5種のテキストでは扱っていないうえに、扱っている場合でもすべて、「~ておく」の学習後である。また縮約形「~とく (やておく)」も、8種類のテキスト中2種 (Total Japanese、SFJ) が扱っているだけで、他は扱っていないからである。

Native users views on simple Japanese

Hiroko SHIMA, Michiko YAEZAWA,
Chisai SAKURADA and Takao OKAZAWA

ABSTRACT The purpose of this paper is to examine Japanese consciousness on easy Japanese under the conversational situation with foreigners. In this study, we used questionnaires consisting of four groups of questions and they were provided to almost 200 Japanese including college students, graduate students and office stuffs of university. Through the statistical analyses of these questionnaires, several features were made clear as follows. (1) Many of students and office stuffs recognized the importance of speaking slowly and clearly and of using gestures to make their Japanese understandable to foreigners. However, $\frac{1}{3}$ of them actually failed in selecting the easiest words and phrases, and the degree of such failures became higher in their expressions including abbreviations. (2) The groups to which informants belong affected the use of English words and sentences in their limited conversation with foreigners. (3) In asking to non-native Japanese speakers, male students tend to use the word "anata" more than female students. (4) Difference in numbers of sentences used in a discourse between non-native and native Japanese speakers are of significance.

資料1

日本語が少ししかわからない外国人に使用する日本語について

〈0〉あなたの性別は？

1. 男性 2. 女性

〈1〉これまで外国人と日本語で話したことがありますか。

1. ある 2. ない

〈2〉「1. ある」と答えた人に質問します。

どこで話しましたか

1. アルバイト先で 2. 学校で 3. 町の中で (路上を含む)
4. 乗り物の中で 5. 留学先で (国名: _____, 期間 _____ か月)
6. ホストファミリーで (期間: _____ か月) 7. その他 (_____)

いつ話しましたか

1. 最近 2. 半年程前 3. 一年程前 4. 2年程前 5. 2年以上前

その人の日本語の理解力はどのくらいでしたか

1. よくできる 2. 少しできる 3. あまりできない 4. 全然できない

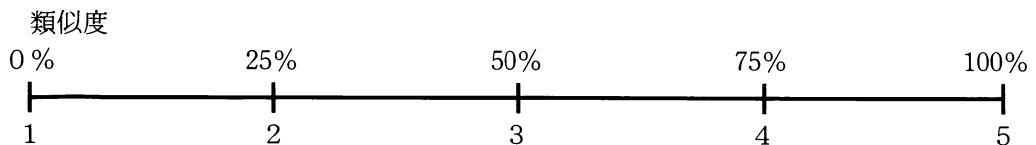
どんな話題でしたか

1. 道を聞かれた 2. 物の購入 (値段, 注文など) 3. 互いの家族について
4. アルバイトのことについて 5. 職業について 6. その国について
7. 挨拶 8. その他 (_____)

そのときのあなたの話し方は、日本人に対して話す時と同じでしたか

1. 同じ 2. 大体同じ 3. 少し違う 4. 全然違う

〈3〉あなたは、非常に易しい日常会話だったらできるが、込み入った内容になると理解できない外国の人 (日本語を勉強はじめて半年ぐらいのレベルで、知っている言葉の数はだいたい1500語程度の人) と日本語で話すことになりました。さて、外国人と話す時の日本語と、日本人と話す時の日本語の類似度の割合をチェックしてください。(数字の1～5から選択)



〈4〉実際に上記日本語レベルの外国の人と話をする場面に遭遇しました。その人にわかるように伝えたいとき、あなたはどのように話しますか。

目の前にその人がいると仮定して、話しかけるように書いてください。

資料2

日常場面における留学生と日本人との会話

(資料a)

事務職員：そこに日付を書いてください。

留学生1：……。

事務職員：日付。

留学生1：……。

事務職員：日付、わからない？デイト、What's date?

(資料b)

日本人学生1：チュ、チュニジアって。あの、ちょっと、場所、よくわかんないですけど。

留学生2：あ、そうですか。あの、チュニジア、あの、アフリカの方へ…
ここからここまで(壁の世界地図を指しながら)だいたい40キロメートルで
す。

日本人学生1：ふーん。ヨーロッパに近い。

留学生2：自然が多くて、ヨーロッパ人みたいです。

日本人学生1：何、何語ですか？

留学生2：？

日本人学生1：何語ですか、つかう言葉は。

留学生2：あのう、アラビア語です。

日本人学生1：アラビア語。ふーん。

(資料c)

日本人学生2；フランスっていうのは、あの、外国語は、えーっと、学校ではどういうよう
な風に習いますか。

留学生3：？

留学生2：日本語は、簡単に。日本語の、まだ。簡単な日本語。

日本人学生2：あの、フランスは、えー、高校とか、中学校とか、どういう外国語を習いま
すか。

留学生3：あー、どう？

日本人学生2：日本ですと、あ、……いいです。

日本だと、えー、日本語以外に、英語を外国語として、習います。フランス
では、何語を。

留学生3：あー、わかります。えー、一番目は、英語を。それに、ドイツ語を、と、ス
페인語、うーん。日本語はちょっと難しい。

1) 駅に行く道を聞かれて、教える。(図-1)

2) 「日曜日、通常の郵便局は窓口業務を行っていないが、特定の主要郵便局に限って午前中、速達郵便のみを受け付けている」ことを、教える。

3) その人に来日の目的と滞在期間、職業を尋ねる。

(5) どんな日本語が上記の外国人にとってやさしくわかり易いと思いますか。それぞれの項目に関して、該当するものに○をつけてください。

*日本人に話す時と比べてください。

A：速さは

1. かなりゆっくり話す。
2. ややゆっくり話す。
3. 変わらない。

B：語句の切れ目（ポーズ）の時間と回数

1. 各回のポーズの時間を長くし、また、回数も多くする。
2. 各回のポーズの時間は長くするが、回数は変わらない。
3. ポーズの回数は多くするが、各回のポーズの長さは変わらない。
4. ポーズの回数も各回の時間も変わらない。

C：声の大きさ

1. 大きくする
2. 小さくする
3. 変わらない

D：声の明瞭さ

1. はっきり話す
2. 変わらない

E：方言の使用の有無

1. 普段は使うが、外国人には使わない。
2. 方言を交えて普段とかわりなく話す。
3. 日頃から方言は使っていない。
4. 自分の言葉が方言かどうかわからない。

F：文体

1. 「どこへ行きますか」のように「です」「ます」を使う。
2. 改まったお客に話すようにもっと丁寧な言葉で話す。
3. 「どこへ行く？」のように普通に話す。

G：外国語（英語等）の使用の有無

1. 難しそうな語句、分かりにくい箇所のみ外国語に直して話す。
2. 外国語は使わない。
3. その他（ ）

H：文の長さ

1. 一文を短くする。
2. 一文を長くする。
3. 変わらない。

I：助詞

1. 「どこへ いきますか」ではなく、「どこ いきます？」のように助詞を省略して話す。
2. 助詞を強調して、話す。
3. 変わらない。

J : 「あなたは、どこから来ましたか」のように、目の前にいる相手に対して主語「あなた」「わたし」を多く使うかどうか。

1. 使う
2. 使わない。

K : 敬語の使用

1. 多くする。
2. 少なくする。
3. 変わらない。

L : 身ぶり手振りの使用

1. 多くする。
2. 少なくする。
3. 変わらない。

M : キーワードや大切だと思う語句がでてきたとき

1. その語句を繰り返す。
2. その語句を大きな声ではっきり話す。
3. 変わらない。

N : 「わかる?」「これ、していますか」のような理解の確認を

1. 多くする。
2. 少なくする。
3. 変わらない。

O : 相手の外国人の言っていることがわからないとき

1. 「もう一度」「え?」「何?」などといって、発言を繰り返してもらう。
2. わからなくてもそのまま会話を続ける。
3. そこで会話を終了させる。
4. その他 ()

P : 相手の外国人が間違った表現や言葉を使ったとき

1. 訂正する。
2. 訂正しない。

Q : 相手のどこを見て話すか

1. 目。
2. 口元。
3. 顔全体。
4. その他 ()
5. 全然見ないで話す。

R : 相手と話すときの距離は

1. 近づく。
2. 離れる。
3. 変わらない。

*その他に気をつけていることがあったら、自由に書いて下さい。

〈6〉 どの話し方が初級レベルの外国人にとって一番易しいと思いますか。記号で選んで下さい。

- 1) a. 食事します
b. 食事をとります
c. ご飯を食べます
- 2) a. 毎日学校へ行きます
b. 毎日通学します
c. 毎日学校へ通っています。
- 3) a. それについて、どんなふうに考えますか
b. それについて、どう考えますか
c. それについて、どういった考えを持っていますか
- 4) a. 「きのうどこへ行った？」
b. 「きのうどこへ行きましたか」
c. 「きのうどこへ行ったんですか」
- 5) a. お兄さん
b. 兄
c. 兄さん
- 6) a. 田中さんは明日休むって。
b. 田中さんは明日休むそうだ（田中さんは明日休むそうよ）。
c. 田中さんは明日休むんですって。
- 7) a. どこで売ってるの？
b. どこで売られているの？
c. どこで売っているの？
- 8) a. あーあ、また失敗してしまった。
b. あーあ、また失敗しちゃった。
c. あーあ、またやっちゃった。
- 9) a. ここに名前を書きなさい。
b. ここに名前を書いてください。
c. ここに名前をお書きください。
- 10) a. その問題について、反対意見がたくさんでた。
b. その問題に関して、反対意見がどんどんでた。
c. その問題を巡って、反対意見が続出した。
- 11) a. 日曜日、どういうふうに過ごしていますか。
b. 日曜日、どんな過ごし方をしていますか。
c. 日曜日、何をしていますか。
- 12) a. 部屋の中にベッドとか机なんかがあるよ。
b. 部屋の中にベッドや机などがあるよ。
c. 部屋の中にベッドとか机とかがあるよ。

- 13) a. 東京へ行ったら、その鞆を買ってきてください。
b. 東京`行ったら、その鞆 買ってきてください。
c. 東京へ行かれましたら、その鞆を買ってきてください。
- 14) a. これは、いいね。
b. これは、いいですね。
c. これなんか、いいね。
- 15) a. 雨がザーザー降っているね。
b. たくさん降っているね、雨が。
c. 雨がたくさん降っているね。
- 16) a. それは、どこで買った時計ですか。
b. その時計は、どこで買ったんですか。
c. どこでその時計を買いましたか。
- 17) a. あなたの国ではどんな言葉を使っていますか。
b. あなたの国では何語を使っていますか。
c. あなたの国ではどういった言葉を使っていますか。
- 18) a. みじん切りにした野菜。
b. 小さく切った野菜。
c. 細かくした野菜。
- 19) a. あ、そのかばん、そこにおいといてください。
b. あ、そのかばん、そこにおいたままにしてください。
c. あ、そのかばんは、そこにおいておいてください。
- 20) a. 規則によって定められている関係上、この貸出はできません。
b. 規則で決まっていますから、この貸出はできません。
c. 決められた規則に従って、この貸出はできません。
- 21) a. 今日は何月何日か、書いてください。
b. 今日の日付を書いてください。
c. カレンダーの今日の日を書いてください。
- 22) a. 何も食べないまま出かけた。
b. 何も食べずに出かけた。
c. 何も食べないで出かけた。
- 23) a. 今日になって言ってきても、もう遅いよ。
b. 今日言いにくても、もう遅いよ。
c. 今日になって言ってきてもねえ…。
- 24) a. 一緒に帰ろう。
b. 一緒に帰らない？
c. 一緒に帰りましょう。
- 25) a. じゃ、こちらからぐるっと自己紹介するってこといきましょう。
b. じゃ、こちらから順番に自己紹介することにしましょう。
c. じゃ、こちらから順々に自己紹介ってかたちでやりましょう。

* *ご協力どうもありがとうございました。